



浜辺だより

☎ 64-1600

令和8年5月

作成/ 浜辺の診療所 広報



風薫る季節になりました。

今月は、現代の子ども事情についての話(後半)です ☺



子どもにとって生きにくくなった社会を考える ——子どもの日を前に(後半)

「不登校のまま義務教育を終える子の進学」へのアドバイス

不登校を経験した子に対し 親としてできることは何かという質問は、日常の場でよく聞かれます。

ここでは、教育学・心理学・社会学の知見を統合した回答を、まとめてみました。

(1)不登校でも小学校や中学を“卒業”することは可能 🟡 義務教育は「出席日数」ではなく「学習の機会の保障」が原則です。学校長の判断で卒業認定されます。ですから別室登校、オンライン学習、スクールカウンセラーとの面談、フリースクールとの連携、レポート提出などで学習の継続が認められれば、卒業は可能です。

(2)進学希望の子へのアドバイス ① 高校は“多様な入り口”がある 🟡 不登校経験者が進学しやすい選択肢は増えています。たとえば通信制高校、定時制高校、サポート校、不登校経験者を積極的に受け入れる学校などです。特に通信制は、今や「不登校の子のため」ではなく、🔥 自分のペースで学びたい子のための新しい学びの形として広がっています。② 学力より“自己理解”が大切 🟡 進学後にうまくいく子は、「自分のペース」「自分の得意」「疲れやすさ」などを理解しています。親ができるのは、“どう生きたいか”を一緒に考えることです。③ 焦らないことが最大の支援 🟡 不登校の子は、「遅れている」「みんなと違う」という不安を抱えています。親が焦ると、子どもはさらに追い詰められます。「あなたのペースでいい」「人生は長い」「高校は何度でも選べる」といったことばが、子どものこころに安心を与えます。

(3)親としてできること ① こどもの“安全基地”になる 心理学では、🔥 家庭が安全基地であることが最重要です。すぐ責めない、他の子どもや家庭と比べない、言動を否定しない、話したくない日は無理に聞かないといったことを守るだけで、こどもの回復力は大きく変わります。② 生活リズムを整えるサポート 学校に行かなくても、朝決まった時刻に起きる、食事を3回とる、少し外に出る、夜はスマホを控える。🔥 こうした地道な行為は、こころの安定に直結します。③ 第三者の支援を活用する 🟡 自分ひとりで解決しようとせず、スクールカウンセラー、児童精神科、フリースクール、教育相談センターなどを利用し、抱え込まないことも大切です。

大人になっても用いる機会がない学業を、高校に進学してまでやる意味はあるのか？

この問いは高校生からも大人からもよく出る、実はとても本質的なテーマです。「使わないのに、なぜ学ぶのか」——この疑問に真正面から答えるには、教育学・認知科学・社会学・哲学が関係してきます。まず数学や理科の公式、歴史の年号、地理の地形分類などは、確かに、社会人になって毎日使う人はほぼいません。けれどもこれらの科目

は「考えるための道具」を育てていることから、中学や高校での学びは「将来の選択肢を閉じない」ための保険といった考えがあります。中学や高校生の段階では、「自分の将来が完全に決まっていない」人が大半でしょう。

そうであるなら、🔥 幅広い学びは「未来の扉を閉じないための準備」になります。

もう一つ大事なことがあります。高校生の脳は、前頭前野(思考・判断・計画・抽象化)が急速に発達する時期にあたります。数学や理科の抽象化思考、化学のモデル化思考、歴史の因果関係理解、地理の構造的思考は、脳が“その力を伸ばす準備が整っている時期”に与えられる刺激としてはベストです。つまり「大人になって使うかどうか」ではなく、🔥 脳の発達段階に合わせた“思考の筋トレ”として意味があるともいえそうです。

不登校を経験し、社会人になった人の“生の声”

研究報告・インタビュー・当事者会の記録などから、典型的な4つのケースを紹介します。

✅例1:通信制高校 → 専門学校 → 会社員(IT系)「学校に行けなかった自分を責めていたけれど、通信制で“自分のペースで学べる”経験をしてから、初めて勉強が楽しいと思えた。不登校は“終わり”じゃなくて、“自分に合う環境を探すきっかけ”だった」
✅例2:中学不登校 → 高校は定時制 → 大学進学 → 公務員「昼間は働きながら夜に学校へ行った。不登校だった頃より忙しかったけれど、“自分で選んだ道”という感覚が自信になった。遠回りしたけど、その遠回りが今の強さになっている」
✅例3:中学不登校 → 高校進学せず → アルバイト → 正社員「学歴がないことを気にしていたけれど、働く中で“人と関わる力”や“責任感”が育った。不登校だった自分を否定しないでほしい。人生は学校だけで決まらない」
✅例4:小学校から不登校 → フリースクール → 起業「学校に行けない自分を“ダメ”だと思っていたけれど、フリースクールで“好きなことを伸ばす”経験をしてから人生が変わった。今はデザインの仕事をしている。不登校の経験は、創造性の源になっている」。

不登校は、学際的にも“個人の問題”ではなく、“社会と環境の問題”であるという結論に至っています。

そして、不登校を経験した子は、その後の人生で十分に立ち直るケースが少なくなく、成長し、活躍できている点は、研究でも当事者の声でも、共通して語られる事実として知っておいてください。

最後に —— こどもの日を前に、私たち大人への問い

こどもの日は、本来「こどもの幸せを願う日」です。しかし、願うだけでは足りません。こどもが生きにくさを抱えている今、私たち大人が問われているのは、「こどもにとって安心できる社会をつくれているか」ということです。こどもは社会の鏡です。こどもが疲れているとき、それは社会が疲れているということ。こどもが生きにくいと感じるとき、それは大人もまた生きにくいことを意味します。こどもの日を前に、こどもたちが「生きていてよかった」と思える社会を、私たち大人が少しずつ取り戻していきたい。そのために、わたしたち大人はなにをすればよいか。立ち止まって考え、心のどこかに小さな灯りをともすことができるか、考えるヒントになれば幸いです。

～ わたしたちは「辛さから解放されてホッとした」と言われる診療所を目指しています ～



診療時間	月	火	水	木	金	土
8:45～12:00	休	●	●	休	●	★
13:30～17:00	休	●	●	休	●	★

【休診日】月曜、木曜、日曜、祝日 ★土曜は8:45～15:00（昼休みなし）の診療となります。

★木曜日は JCHO 湯河原病院 内科外来。